

平家物語に思いをはせて
クマガイソウ特別公開

4月24日から30日まで、押方芝原西の興梠幸男さんが管理する30畝ある烏屋岳の山林内において、クマガイソウの特別公開が行われました。
クマガイソウはスギ林などの日陰で湿り気のある場所を好むラン科の多年草で、源平合戦の武将熊谷直実が背負っていた母衣(矢除けの道具)に似た花姿がその名の由来です。環境省の絶滅危惧種の指定を受けていて、大変希少な植物となっています。



開催に向け気運醸成を
国スポ実行員会第3回総会開催

4月30日、日本のひなた宮崎国スポ高千穂町実行委員会の第3回総会が開催されました。
異動等による委員名の変更や周知広報の取組み、各専門委員会での決定概要の報告の後、令和7年度事業報告・収支決算、本年度事業計画・予算、各専門委員会の基本計画が審議され、全会一致で承認・可決されました。
6月14日にはリハーサル大会として、第76回西日本各県対抗剣道大会が開催されます。



この景観を後世に
高千穂峡観光安全祈願祭が開催

4月21日、ゴールデンウィークを前に、高千穂峡のあららぎ乃茶屋前広場で、高千穂町観光協会(竹尾通洋会長の観光安全祈願祭が行われました。
式典には、関係者約50人が出席。関係機関の代表者による玉串奉納の後、竹尾会長と町長が、五ヶ瀬川に献酒しました。
竹尾会長は「高千穂峡の安全を確保し、この景観を後世に残していきたい」とあいさつしました。



観光客や見物客でにぎわう
高千穂神社春季例祭を斎行

4月16日、高千穂神社(後藤俊彦宮司)で、春季例祭が行われました。
午前中に神社で神事が執り行われた後、正午から神楽や棒術などの御神幸行列が「浜下り」のため高千穂峡に向け出発。神輿を担ぐ男衆が「おのころ池」へ入り「おのころ島」を時計回りに3周し身を清めました。その後は神社へ戻り余興隊とともに天真名井付近まで練り歩き、沿道の見物客をにぎわしました。



まらり 高千穂人

国際女子相撲選抜大会出場

高千穂中学校相撲クラブの堀姫萌華さん、堀瑠琉華さん、飯干莓香さんの3人が、第14回国際女子相撲選抜大会に宮崎県選抜チームとして出場されました。
実業団所属の選手や社会人選手も出場するなか、団体戦と体重別の個人戦にそれぞれ出場し、団体戦ベスト16と健闘されました。



大会前の出場報告では、堀萌華さんが「大会で団体戦を組むのは初めてなので仲間を信じて頑張りたい」と抱負を述べました。

広澤克実杯全日本地域対抗選手権大会出場

3月7日に開催された選考会において、九州選抜20人のうち高千穂中学校の新人藍翔さんが県内からただ一人選ばれ、5月9～10日に開催された広澤克実杯全日本地域対抗選手権大会兼日本代表選手選考会にポニリーグU13九州選抜チームとして出場されました。
大会前の出場報告では「選ばれたときは驚いたが、素直にうれしかった。チームを勝利に導けるよう頑張りたい」と抱負を述べました。



戦争のない平和な社会を
戦没者並びに公務殉職者追悼式

4月24日、町武道館で遺族など関係者約210人が参列し、戦没者並びに公務殉職者追悼式が開催されました。
式では、国歌斉唱と1分間の黙とうが行われ、町長らが追悼の言葉を述べた後、遺族会など関係団体の代表者が献花。1141柱の御霊を慰めました。町慰霊祭協賛会佐藤則義会長が「今も世界で戦争が起きている。唯一の被爆国として、過去の悲劇を繰り返してはならない」とあいさつしました。



スポーツを通して仲間との友情を大切に
第35回町スポーツ少年団結団式

4月24日、自然休養村管理センターで、町スポーツ少年団(佐藤幸男本部長)の結団式が行われました。
式には、4種目9団体の団員と指導者、育成会らが参加。代表の高千穂ソフトボールの甲斐巴菜さんに認定証が渡されました。また、団員を代表して、スピリッツソフトボールクラブスポーツ少年団の甲斐悠馬さんが、力強く「団員誓いのことば」を述べました。

